



比観亭跡
●水戸藩第6代藩主徳川治保が1791年に風光明媚なこの地に東屋「比観亭」を建てた。



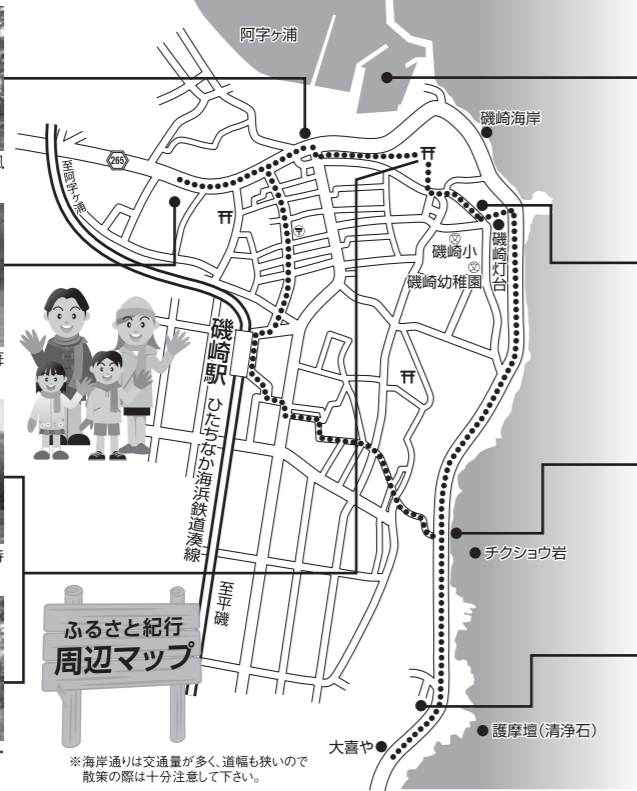
川子塚前方後円墳
●市内に現存する最大の方後円墳。基石と埴輪が確認されている。



酒列磯前神社
●少彦名命(すくなひこなのみこと)と大名持命(おおなむらのみこと)をまつっている。



酒列磯前神社の樹叢
●300mの参道にはヤブツバキやダブノキ、スタジイなどの常緑樹がある。



ふるさと紀行
周辺マップ

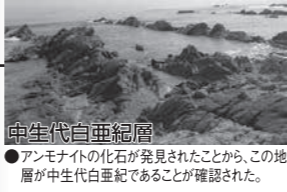
※海岸通りは交通量が多く、道幅も狭いので散策の際は十分注意して下さい。



磯崎漁港
●黒潮と親潮がぶつかり合う茨城の沖合で収穫した栄養たっぷりの魚介類が水揚げされる。



いそざき温泉 ホテルニュー白亜紀
●太平洋を望む高台にあり、大海原を一望できる露天風呂は日帰りでも利用できる。



中生代白亜紀層
●アンモナイトの化石が発見されたことから、この地層が中生代白亜紀であることが確認された。



観瀆所の碑
●9代藩主徳川斉昭公が雄大な景観を賞賛し観瀆所と命名し、自ら書いた碑を建てた。

Vol.69

駅からのふるさと紀行 ひたちなか
海浜鉄道湊線

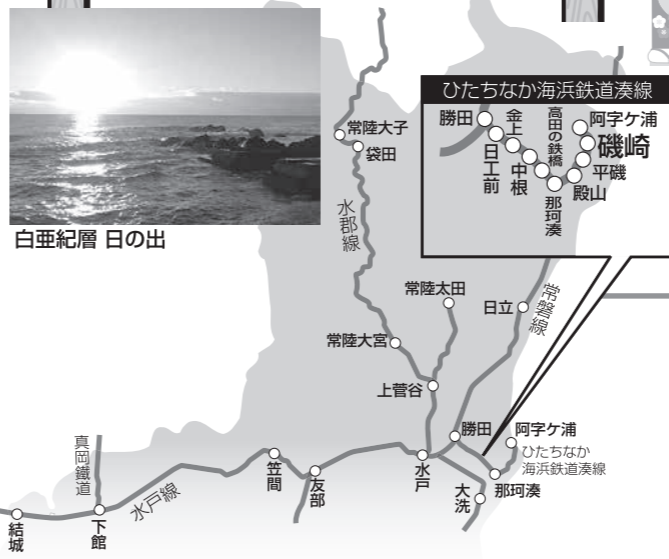
磯崎駅

ひら いそ あじがうら
平 磯 阿字ヶ浦

●次回は1月28日 ※イラストはイメージです。
「赤塚駅」を掲載予定です。



白亜紀層 日の出



●単式1面1線の無人駅。駅付近は線路がカーブしているため、ホームも線路に沿って曲がっている。



●さつまいものイラストが描かれている駅名標。



●カーブしているホーム。

歴代の水戸藩主も着目した磯崎元日には初詣客と初日の出客で賑わう

ひたちなか海浜鉄道湊線の磯崎駅は、大正13年9月、那珂湊駅から鉄道が延伸されたことよって開業した。蒸気機関車の時代には機関庫や給水塔、石炭台が設置され、給水塔は長く残されていた。

ひたちなか海浜鉄道の駅名標は、地域を象徴するイラストがデザインされているが、磯崎駅にはサツマイモが描かれている。ひたちなか市は「干し芋」の名産地として有名で、駅周辺はサツマイモ畑が多く、冬にはたくさん芋を干している風景が心を和ませる。

平磯から磯崎までの海岸は中生代白亜紀層が見られる。東へ30〜40度傾斜した岩礁が連続する独特の地層を持つ海岸で、ここから見る初日の出は格別。磯崎駅近くには酒列磯前神社もあるので、元旦に訪れたいスポットだ。ひたちなか海浜鉄道では例年、元旦に特別列車の「初日の出・初詣列車」を運行しているのでぜひ利用したい。

働く人と、世界を走る。

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)
http://www.ibaraki-isuzu.co.jp

彫刻や、宝くじ当選にご利益があると言われる「亀石象」があるので探してみよう。

神社から海側に向かうと日帰り入浴もできるいそざき温泉ホテルニュー白亜紀と磯崎灯台がある。元朝にはそこから海岸に下って初日の出を拝もう。海岸線を南に進めば中生代白亜紀層や観瀆所がある。観瀆所は徳川斉昭公が藩内随一の波浪の見所と称賛し、自らが命名した場所。さらに南に進むと「カジキマグロの醤油漬け」で知られる「大喜や」があるので、お土産にするのもよい。



大喜やのカジキマグロの醤油漬け

● 散策コース ●

まずは駅から北に向かい、酒列磯前社を目指そう。鳥居の手前には比観亭跡がある。阿字ヶ浦や磯崎漁港を眺めることができる景勝地で、水戸藩六代藩主・徳川治保公はここからの眺望を気に入り、東屋を建てた。酒列磯前神社は856年の創建で、当初は比観亭跡地にあったが、徳川光圀公が名社の荒廃を嘆き、現在地に遷宮を命じた。鳥居から拝殿へと向かう参道は海洋性の温暖な気候に育まれた樹叢(じゅうそう)で、古木が生い茂り、特別な雰囲気を感じ出している。境内には日光東照宮の「眠り猫」で知られる左甚五郎が彫ったと言われるリスとブドウの